食と農と健康の産業団地
アグリサイエンスバレー常総と道の駅

常総市　産業振興部農業政策課

1．はじめに

茨城県常総市は、県庁所在地である水戸市から南西に70キロメートル、東京都心から北東に50キロメートル圏内に位置しています。

関東平野特有の平坦な地形を有しており、地域農業の特色としては、市域の中央を流れる鬼怒川と東端を流れる小貝川との間に挟まれた東部では水稲が、猿島台地や結城台地が発達した西部ではハクサイやキュウリ等がさかんに栽培されています。

また、市内には4つの工業団地があり、一大消費地である首都圏への出荷を目的とした食品及び機器類等の製造業者が複数立地しています。

2．アグリサイエンスバレー事業

平成29（2017）年2月、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の茨城県区間が全線供用開始となると同時に、常総インターチェンジが開通し、常総市から関東一円への交通利便性が飛躍的に高まりました。

常総市では、常総インターチェンジの供用開始を絶好のチャンスととらえ、平成26（2014）年3月に常総インターチェンジ周辺に地域農業を活性化するための産業団地をつくる構想を掲げ、以来「アグリサイエンスバレー事業」として周辺整備を進めてきました。

アグリサイエンスバレー事業は、常総インターチェンジ周辺の約45ヘクタールを対象として、1次産業（生産）、2次産業（加工・流通）、3次産業（販売）にまつわる機能を集積し、生産、加工、流通、販売が一体となった地域農業の核となる産業団地をつくることで、基幹産業である農業を活かしたまちづくりを目指すものです。

アグリサイエンスバレー事業の区域内は、もともとほぼ全域が水田であったため、1次産業のエリアを「農地エリア」、2次産業と3次産業のエリアを「都市エリア」と区分し、各エリアの趣旨に沿った基盤整備を行いながら、産業の担い手となる企業を誘致してきました。

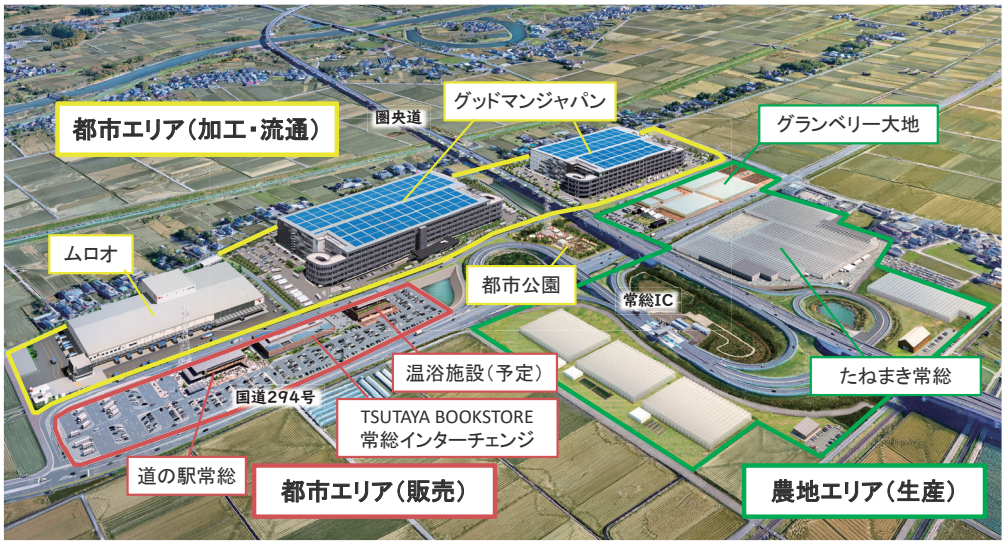

図1　アグリサイエンスバレー常総　完成イメージ

３．高収益農業のモデル「農地エリア」

「農地エリア」は、アグリサイエンスバレー常総の総面積である約 45 ヘクタールのうち約 14 ヘクタールを占めます。収益性に優れた先進的な農業を展開し、市の面積の過半を占める農地において、より高収益な農業を波及させるための土地利用のモデルとなる取組を行っています。

この「農地エリア」では、令和 2（2020）年度に水田畑地化を目的とした市営土地改良事業（基盤整備）を施行し、大区画の畑地を整備しました。令和 3（2021）年度からは、農業法人による農地の借受けが始まっており、これまでに「空中いちご園」グランベリー大地、ソフトバンクグループ初の農業法人である株式会社たねまき常総が事業進出を果たしており、関東圏を主なマーケットとしながらそれぞれ事業を展開しております。

図２　グランベリー大地

４．農産物の価値を高める「都市エリア」

「都市エリア」は約 31 ヘクタールを占め、2 次産業（加工・流通）と 3 次産業（販売）を担っています。農産物に加工特性を持たせて付加価値を上げる取組みや、インターチェンジ周辺の交通利便性を活かした農産物の広域流通、後述する道の駅をはじめとする集客拠点の特性を活かした農産物の特産化・魅力発信を進め、「地域ぐるみの 6 次産業化」を実現するための土地利用を図っています。

図３　企業進出が進む都市エリア

5．相乗効果を図る交流拠点の立地

アグリサイエンスバレー常総は、市外・県外からやってくる人々にとって常総市の玄関口であり、他地域からの来訪者を既存市街地や地域資源と結びつける交流拠点としての性格も有しています。

令和5年4月28日に茨城県内16番目の道の駅「常総」が、次いで5月27日に「TSUTAYA BOOKSTORE 常総インターチェンジ（運営:東和観光開発株式会社）」がグランドオープンを迎えました。

図4　道の駅常総

図5　TSUTAYA BOOKSTORE 常総インターチェンジ

令和5年に開業を迎えた道の駅常総及び TSUTAYA BOOKSTORE 常総インターチェンジは、その用地が土地区画整理事業によって創出され、市街化区域に立地するという特性を持ちます。そのため、単独ではなく一体的な土地利用ができ、相互に立ち寄りやすい設計及び業態を導入することで集客の相乗効果を図っていることが大きな特徴となっております。

また、道の駅常総は、地域の農産物や加工品の紹介・販売を通して地域の魅力を発信しています。さらに、道の駅が持つ交流拠点としての特性や情報発信機能を最大限に活かして地域資源の認知・周遊を促進する等、地域の関係人口・交流人口の拡大にも取り組んでいます。

図6　常総産・茨城産の食材がふんだんに使用された道の駅常総のメニュー

図７　地域周遊のイメージ

６．地域が主体となったビジネスづくり

アグリサイエンスバレー常総や道の駅がもたらす「賑わい」を活かしたビジネスを創出していくため、常総市は令和３（2021）年度からの３か年事業として、市民参加型の講座「じょうそう観光地域づくりLabo」を企画・開催しました。

この講座は、道の駅を活かした市内回遊の仕組みづくり、農産物などのブランド化による販売促進、商店や地場産業を元気にする仕組みづくりなど、市民や農商工業者の持ち味や個性を活かした地域ビジネスの創出を目的に実施しました。

令和３（2021）年10月の初回講座以降、市内の農業者、農業関連事業者（農泊、体験・観光農園、農家レストラン、直売所、農産加工など）はもちろん、飲食業者、観光事業者をはじめとして、常総市が持つ地域資源を活かした活性化に関心のある方々に参加していただきました。令和５（2023年度）をもって講座は終了しましたが、常総市は今後も参加者によるビジネスの創出と社会実装を支援していきます。

７．さいごに

アグリサイエンスバレー常総では、道の駅常総のオープンや進出企業の立地によって、地域交流拠点として大きな人の流れを生み出すことができました。引き続き、この事業効果を最大限に活用しながら、地域がさらに活性化するまちづくりを推進してまいります。皆様におかれましても、ぜひアグリサイエンスバレー常総と常総市へお越しいただけますと幸いです。